

KOGANEI CIVIC ORCHSTRA

小金井市民オーケストラ

第43回 定期演奏会 REGULAR CONCERT

2026年11月3日(火・祝) 13:30開場／14:00開演

小金井 宮地楽器ホール(小金井市民交流センター)大ホール

JR中央線 武蔵小金井駅南口正面

全席自由1,000円



指揮：工藤俊幸

ボロディン
交響詩「中央アジアの草原にて」

A. Borodin
Symphonic Poem "In the Steppes of Central Asia"

シューベルト
交響曲第6番 ハ長調 D589

F. Schubert
Symphony No. 6 in C major D589

ドヴォルジャーク
交響曲第8番 ト長調 作品88

A. Dvořák
Symphony No. 8 in G major, Op. 88

主催：小金井市民オーケストラ
後援：小金井市・小金井市教育委員会
NPO法人小金井市文化協会
協賛：小金井さくらロータリークラブ



連絡先：<https://koganeiorchestra.jimdofree.com/>





指揮 工藤俊幸 Toshio Kudo

1966年山形県に生まれる。国立音楽大学音楽学部作曲学科卒業。桐朋学園大学音楽学部オーケストラ研究科指揮専攻修了。指揮を崎田俊治、黒岩英臣、飯守泰次郎各氏に、作曲を増田宏三、島岡譲両氏に師事。1992年オーディションで選ばれ仙台フィル副指揮者に就任。外山雄三音楽監督のもと、1996年までその任を務める。その後一年間ベルリン・ドイツ・オペラで研修。帰国後は全国各地のプロオーケストラを指揮する傍ら、合唱指揮者としても高い評価を得ている。2016年より国立音楽大学音楽研究所公演としてバーンスタイン「ピーターパン」をはじめ数々の20世紀アメリカ音楽の日本初演を果たす。佐藤聰明作品を指揮したCD「仄かなる闇」をカメラータよりより発売。2020年NHK連続テレビ小説「エール」では指揮者役でドラマ出演。国立音楽大学客員教授。

ボロディンの交響詩“中央アジアの草原にて”。冒頭から、ヴァイオリンの澄んだ高音が演奏され、果てまで広がる草原の朝の静寂が目目に浮かびます。クラリネット奏するロシアの歌が聞こえ、そこに進みゆくキャラバンの馬やラクダの足音を表現した弦楽器のピチカートが重なっていきます。東洋風の旋律を表したイングリッシュホルンも加わり、「ロシアの歌」と「キャラバンの足音」、「東洋のメロディ」が混ざりあいながら盛り上がっていきます。やがてキャラバンの一行はロシア兵に付き添われ安心感の中、次第に遠くへ。ロシアのテーマだけが残り終曲に向かいます。3種のメロディーで構成され演奏時間も7～8分とコンパクトな曲ですが、絵画や映画のワンシーンのように光景的で、また故郷は違うのに懐かしさを感じるような情緒的な美しさを持っています。民俗的なテーマの融合、色彩豊かな音色の組み立てなど、ボロディンらしい一曲となっています。

1810～1820年代、ウィーンでも熱狂的な人気を誇っていたイタリアの作曲家ロッシーニ。シューベルトも例外ではなく、ウィーンでも熱狂的な人気を誇っていたロッシーニの音楽に感銘を受け、自身の作曲に取り入れていきました。“交響曲第6番”もそのうちの一つです。イタリアの舞曲的なリズムや旋律を組み込み、軽快で華やかな雰囲気を感じられます。構成については、1、4楽章にコーダを導入し3楽章はスケルツォとするなどベートーヴェンの交響曲の影響が強く見られ、シューベルトのベートーヴェン愛がうかがえます。それらはもちろん単に真似をするということではなく、今までにない新鮮な和声、湧き出る様に歌い継がれていく旋律、独特のダイナミクスの変化など、シューベルトの感性が融合され、おおらかでやや取り留めのないところも愛らしく感じるような作品です。情緒を受容し、肯定し、共感してくれる。そんなシューベルトの人間性が感じられる楽曲ではないでしょうか。

“交響曲第8番”を作曲したのは、ドヴォルジャークが48歳のとき。40代にやっと世間に認められ経済的にゆとりが出てきたこの頃、故郷ボヘミアのヴィソカーという村に別荘を構えました。ヴィソカーは小高い丘と森に囲まれ、鳥の声や草木のざわめき、風の香りを日常で感じられる場所です。自然好きなドヴォルジャークには至福の環境だったことでしょう。このような環境の中で作曲されたためでしょうか、自然を感じさせる旋律や伸びやかで長大な美しい主題が印象的な曲となっています。また、スラヴ的・チェコ的な民族舞曲・民謡を取り入れたり、大好きな鉄道を表す音を入れてみると、彼の愛した風景が随所に表現されています。ドヴォルジャーク自身は言及していませんが、「葬送」を意図するような表現や子供を思わせるようなフレーズが見受けられ、数年前に亡くなっていった愛児たちへの想いが感じられます。また、亡き師へのオマージュ的な表現なども見て取れ、最愛の人たちを回顧している姿が想像されます。ドヴォルジャークを形作ったものが詰め込まれている、人生譚のような作品をぜひお楽しみください。

管弦楽：小金井市民オーケストラ Koganei Civic Orchestra

1982年(昭和57年)、元東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者の故・椎野謙一郎氏を中心に、小金井市内在住・在勤の音楽愛好家により創設。現団長は元読売日本交響楽団ファゴット奏者の越康寿氏。毎週日曜日、栗山公園健康運動センター(東小金井)を拠点に活動。小金井市民交流センター(宮地楽器ホール)のこけら落とし公演となった「小金井文化協会創立20周年記念演奏会」、「3.11東日本大震災メモリアルコンサート」、小金井市民による「第九特別演奏会」など、記念となる数々の演奏会で好評を博してきた。

■団員募集

小金井市民オーケストラでは複数のパートで団員を募集中です。
ご関心のある方は見学を受け付けておりますので、
HPよりお問い合わせください！

<https://koganeiorchestra.jimdofree.com/>

